

「見守り続ける」信条に

トップ インタビュー

門屋組

(松山市)

社長 門屋 光彦さん(41)

創業100周年を迎えた10年前、工業、商業施設など大型工事を請け負う総合建設業の4代目社長に就任した。「建物は50年後も100年後も残る。見守り続けることがお客さまの安心につながる」との信条を持ち「他に例がない」完工後2年の保証期間を付与。さらにこれまで請け負った2千棟以上の建物で、現存しているものは図面や不具合をデータ化した。「建物版の『町医者のカルテ』として迅速なアフターフォローに役立てたい」とする。

父である3代目の背を見て育ち、自然と社長を志した。大学卒業後は現場監督の修業のため県外の建設会社に就職。「しんどい4年間だったが、全ての経験が今の礎になった」と振り返る。帰郷後は54年間会社を守ってきた父との「闘い」が待っていた。「父には『わしが全部やってきた』との自負があり、半人前の自分が何を言っても聞き入れてくれなかった」。あきらめず議論を重ね2年、「自分たちは創業者から続くバトンを次に渡す中継ぎ」との意識を共有できた時から関係が変化。ブログでの情報発信や工事途中の現場写真の公開など、新



たな提案に口を挟まず協力してくれるようになった。

業務の効率化、協力会社とのコミュニケーション推進、IT化などにも取り組み、就任後、社員数はほぼ変わらないままで売り上げは伸び続けている。「失敗を恐れず挑戦し、好機をつかむリーダーであらうと努めている。ブログや松山青年会議所の活動で培った人とのつながりも大きい」と好調な業績を分析する。

ホームページでは200周年へカウントダウンを刻む。「少子化をにらみ、次の100年へ今は地盤を固める時期。創業者の精神を胸に、地図に歴史に、人の心に留（とど）まる建物を造り、見守り続けたい」と気を引き締める。

